

ジェンダー研究センター彙報〈平成19年度〉

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

職名は発令時による

平成19(2007)年度研究プロジェクト概要

	年 月 日	テーマ	報告者、評者等
IGS セミナー	IGS セミナー「教育におけるジェンダー平等——ネパール EFA 第5目標達成の経験から——」 Gender Equality in Education : Experiences of Nepal to Achieve EFA Goal 5		
	平成19年5月30日	第一回 「ネパールにおける女子の基礎教育参加の課題」 “Issues on girls' participation in basic education in Nepal”	菅野琴 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター客員研究員 前駐ネパールユネスコ代表、カトマンズ事務所長)
	平成19年6月7日	第二回 「ネパールにおける女子教員増強政策—女子教育普及戦略の諸問題」 “Female teachers in Nepal: Review of Nepal's policy strategy for increasing girls' participation in education”	菅野琴 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター客員研究員 前駐ネパールユネスコ代表、カトマンズ事務所長) ディスカッサント：橋本ヒロ子 (十文字学園女子大学社会情報学部教授)
	平成19年6月27日	第三回 「教育におけるジェンダー平等達成への展望と課題」 “Achieving gender equality goal in education: Future perspectives and strategies”	菅野琴 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター客員研究員 前駐ネパールユネスコ代表、カトマンズ事務所長) ディスカッサント：内海成治 (お茶の水女子大学開発途上国女子教育協力センター客員教授 大阪大学大学院人間科学研究科教授)
講演会	平成19年11月9日	秋の午後の読書会「多和田葉子とエクソフォニーをめぐる旅」 YokoTawada and Exophonic Voyage	多和田葉子 (作家) 司会：山出裕子 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究機関研究員)
ワークショップ	平成20年3月16日	国際ワークショップ「環太平洋権におけるワーク・ライフバランスの比較研究」 “International Workshop on Work/Life Balance in Japan, Australia and Canada”	バーバラ・ポコック (Barbara Pocock) (南オーストラリア大学教授)、メアリー・ルンテ (Mary Runte) (カナダ・レスブリッジ大学助教授)、グレンダ・ロバーツ (Glenda S. Roberts) (早稲田大学教授) コメンテーター：中里英樹 (甲南大学准教授) 司会：足立真理子 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センターセンター長)
「映像表現とジェンダー」研究会	平成19年8月8日	第一回 「ヒロシマ・モナムール」にみる映画技術と戦争技術の近接性	発表者：柴田優子 (コーネル大学アジア学部東アジア文学大学院, 早稲田大学ジェンダー研究所客員研究員)
	平成19年11月19日	第二回 「小林富久子『ジェンダーとエスニシティで読むアメリカ女性作家—周辺から境界へ』を読む」	発表者：山出裕子 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究機関研究員) 臺丸谷美幸 (お茶の水女子大学大学院)
	平成20年1月28日	第三回 占領と被占領の狭間で——三本の映画からみる戦時下の映画史——	発表者：晏妮 (明治学院大学非常勤講師)
	平成20年3月6日	第4回 「黒沢明『羅生門』のポリフェニー性」	発表者：千種キムラ・スティーブン (ニュージーランド・カンタベリー大学教授)

1. 人事関係

1) 運営委員会名簿(括弧内は在任期間)

ジェンダー研究センター長・准教授 足立真理子 (平成19年4月1日～)

文教育学部教授 宮尾 正樹 (同上)

理学部教授 増永 良文 (平成16年4月1日～平成20年3月31日)

生活科学部教授 戒能 民江 (同上)

人間文化研究科教授 竹村 和子 (同上)

文教育学部教授 米田 俊彦 (同上)

理学部教授 真島 秀行 (同上)

生活科学部教授 杉田 孝夫 (同上)

ジェンダー研究センター教授 館 かおる (平成8年5月11日～)

ジェンダー研究センター専任講師 市井 礼奈 (平成18年12月1日～平成20年3月31日)

研究協力員

キーヨン・シン
(日本学術振興会外国人特別研究員)
(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

朝倉 京子
(新潟県立看護大学助教授)
(平成19年4月14日～平成20年3月31日)

大海 篤子
(立教大学非常勤講師) (同上)

小山 直子
(お茶の水女子大学 COE 客員研究員)
(同上)

小門 穂
(お茶の水女子大学 COE 客員研究員)
(同上)

小林富久子
(早稲田大学教授・ジェンダー研究所所長)
(同上)

斉藤 正美
(富山大学非常勤講師) (同上)

酒井 順子
(フェリス女学院非常勤講師) (同上)

佐藤(佐久間)りか
(お茶の水女子大学 COE 客員研究員)
(同上)

仙波由加里
(神奈川県立衛生看護専門学校他非常勤講師) (同上)

田中 俊之
(学習院大学 PD 研究員) (同上)

高橋さきの
(東京農工大学非常勤講師) (同上)

中山まき子
(同志社女子大学教授) (同上)

根村 直美
(日本大学教授) (同上)

林 奈津子
(ミシガン大学ジェンダー研究所客員研究員)
(同上)

三村 恭子
(お茶の水女子大学 COE RA) (同上)

山崎美和恵
(埼玉大学名誉教授) (同上)

林 紅
(中国アモイ大学人文学院助教授)
(同上)

2) スタッフ名簿(括弧内は在任期間)

センター長(併) 足立真里子 (平成19年4月1日～)

センター教員 館 かおる (平成12年4月1日～)

市井 礼奈 (平成18年12月1日～平成20年3月31日)

外国人客員研究員 ペトリス・フラワーズ
(ハワイ大学マノア校 政治経済学部助教授)
(平成18年4月～平成18年6月)

客員教授(国内) ホーン 川嶋 瑤子
(スタンフォード大学「女性とジェンダー研究所」研究員)
(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

柘植あづみ
(明治学院大学社会学部教授) (同上)

小川真里子
(三重大学人文学部教授) (同上)

伊藤 るり
(一橋大学大学院教授) (同上)

非常勤講師 原 ひろ子
(城西国際大学大学院人文科学研究科客員教授) (同上)

研究員 山崎 明子
(日本学術振興会 RPD 特別研究員)
(平成19年4月1日～)

研究機関研究員	山出 裕子	(平成19年4月1日～平成20年3月31日)
研究支援推進員	飯田 伸彦	(平成18年4月1日～)
リサーチ・アソシエイト・フェロー	佐藤 梢	(平成19年4月1日～平成20年3月31日)
事務局員	花岡ナホミ	(平成18年4月1日～)

2. 会議関係

〈運営委員会の開催〉

平成19年4月18日／5月16日／6月13日／7月11日／9月12日／10月10日／11月14日／12月12日／平成20年1月16日／2月13日／3月10日

3. 研究調査活動

1) センター共同研究プロジェクト

「アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー配置」

〈科学研究費基盤研究A〉

【研究担当】

伊藤 るり (IGS 客員教授、一橋大学大学院教授)
 足立真理子 (IGS 准教授)
 落合 絵美 (本学大学院博士後期課程)
 大橋 史恵 (本学大学院博士後期課程、F-GENS COE 研究員[RA])
 越智 方美 (本学大学院博士後期課程)
 イシカワ・エウニセ・アケミ (静岡文化芸術大学准教授)
 稲葉 奈々子 (茨城大学准教授)
 大石 奈々 (国際基督教大学准教授)
 小ヶ谷千穂 (横浜国立大学准教授、F-GENS COE 客員研究員)
 定松 文 (恵泉女学園大学准教授)
 安里 和晃 (龍谷大学非常勤講師)
 このほか、「国際移動とジェンダー (IMAGE)」研究会メンバー

【研究内容】

1980年代後半以降、アジアでは家事、育児、介護、看護等の再生産領域で海外就労する女性労働者の急増が見られる。途上国女性が担う再生産労働はいまや「国際商品」と化し、少子高齢化、女性の就業形態の多様化、サービス経済化に直面する先進工業国で、福祉体制や景気動向を問わず、受容される傾向にある。また途上国でも、海外雇用市場を確保

するための方策が戦略的に追求されている。他方、その裏では、海外就労女性の家族に再生産労働の空白が生まれ、そのことが家族や世代間関係に大きな負荷を与えている。再生産領域のグローバル化は、再生産労働の「国際商品」化に留まらず、このような労働と身体との再生産に食い込む《再生産連鎖》の広がりとして認識できる。本研究では、アジアにおける再生産領域のグローバル化の実態とその各国におけるジェンダー(再)配置との関連を、社会学、経済学、文化人類学、人口研究等の立場から学際的に把握することを目的とした。なお、本プロジェクトは2005年度から2008年度の科学研究費補助金基盤研究(A)「アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー配置」(研究代表者 伊藤るり)の助成を受けた。

「家族とジェンダー：家庭内性別役割分業の日米比較研究」

【研究担当】

石井クンツ昌子 (IGS 研究員、本学人間文化創成科学研究科教授)
 ユン・ジンヒ (お茶の水女子大学ジェンダー学際研究専攻、D2)
 加藤 邦子 (お茶の水女子大学ジェンダー学際研究専攻、D2)
 岩下 好美 (お茶の水女子大学ジェンダー社会科学専攻、M1)
 賀茂 美則 (ルイジアナ州立大学社会学部准教授)
 Ross Parke (カリフォルニア大学リバーサイド校心理学部教授、家族研究センター所長)

【研究内容】

本研究では日米の共働き家庭の男性と女性に焦点をあてて、仕事と家庭の両立に関する家庭・職場環境や政策などの影響を総合的に実証研究することが主な目的であった。平成19年度は日米において文献研究を進め、ヒアリングデータを収集し、ワーク・ライフバランスの実態を把握した。その結果、日米においてワーク・ライフバランスに関する制度はある程度整っているが、実際それらの制度を有効に使うことが困難であることなどの知見が得られた。この研究をもとに日米で研究論文掲載、学会発表・講演などを行った。

「高齢社会のジェンダー配置と移住ケア労働者——日本とシンガポールの比較研究」

〈二国間交流事業共同研究〉

【研究担当】

伊藤 るり (IGS 客員教授、一橋大学大学院教授)
足立真理子 (ジェンダー研究センター准教授)
小ヶ谷千穂 (横浜国立大学准教授)
定松 文 (恵泉女学園大学准教授)
吉岡なみ子 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程)
YEOH, Brenda (シンガポール国立大学教授)
HUANG, Shirlena (シンガポール国立大学助教授)
PIPER, Nicola (シンガポール国立大学リサーチ・フェロー)
TOYOTA, Mika (シンガポール国立大学リサーチ・フェロー)

【研究内容】

シンガポールと日本は、アジアにおいて急速に高齢化を遂げつつある社会であり、高齢者ケアをめぐる労働が注目されている。本共同研究では、こうした両国の共通点を踏まえ、ケア労働が各社会でどのように充当されるのか、とくに(1)移住ケア労働者の導入、そして(2)ジェンダー分業の変化との関係で検討し、両国の政策やジェンダー分業のありようを比較の方法を通じて解明することを目的とした。なお、シンガポールは 1970 年代末から移住家事労働者の導入を政策的に進めてきた国であり、この点で日本と大きく異なる。しかしながら、2004 年 11 月の日比 FTA 大筋合意のなかに、フィリピンからの看護師、介護士の導入が盛り込まれたように、日本においても少子高齢化を背景とした移住ケア労働者の受入が目前の課題として迫っている。こうした変化が、従来のジェンダー分業や女性労働にどのような影響を与えるのか、グローバル化のもとでのジェンダー公正を構想するうえで、シンガポールとの比較研究は重要な意義をもつものであったといえる。

「資本・自然・セクシュアリティ」

【研究担当】

足立真理子 (IGS 准教授)
田崎 英明 (立教大学教授)
伊田久美子 (大阪府立大学教授)

【研究内容】

「グローバル化の進展過程、とりわけ新国際分業 (NIDL) 段階において析出された 3 要件に加えて、今日のポスト NIDL 段階においては、生殖医療を含む先端科学技

術の動向が国際分業の物的基礎を形成するようになってきている。ポスト・ゲノム時代といわれる状況における「自己身体の自己所有」論を、思想・政治経済・社会的な視点から再検討した。

「ウェブ世界におけるジェンダーの位相」

【研究担当】

館 かおる (IGS 教授)
小山 直子 (F-GENS COE 客員研究員)

【研究内容】

本プロジェクトでは、情報テクノロジーがもたらす「ジェンダー」にかかわる諸現象の解明を目的とするものであるが、特にウェブ世界におけるジェンダーの位相の様々な形態を研究対象に置いた。具体的には「検索画面」を取り上げ、そこで提示される「ジェンダー」関連情報を分析し、検索順位の形成が、人為的操作を介入させない数値的アルゴリズムによって導きだされる「公平」なものという「神話」を、「検索順位」の決定要因を検証することにより、明らかにした。こうした研究は、情報テクノロジーの進展に伴い、ウェブ世界での「ジェンダー」にかかわる「情報の摂取」や「知の獲得」が、実世界の権力により作為的に作用する事態をテクノロジーの社会的形成の観点から考察することの価値を提示するものである。なお、本研究は、2007-2009 年度の科学研究費補助金 (B)「社会科学の新しい研究方法論としての統合型ウェブマイニング環境の開発研究」(研究代表者 増永良文)の一部を分担した。

「医療機器の開発・応用とジェンダー」

【研究担当】

柘植あづみ (IGS 客員教授・F-GENS 事業推進担当者・明治学院大学教授)
小門 穂 (IGS 研究協力員・COE 研究協力員)
三村 恭子 (IGS 研究協力員・COE RA)

【研究内容】

医学・医療が患者・利用者の身体を客体化していると指摘されて久しい。特に、医学・医療におけるジェンダーバイアスが、医療機器の開発に際しても女性の身体を客体化するように作用するという批判的指摘がある。もちろん、同じ機器・道具であっても、それを使う人の姿勢や熟練、そして患者・利用者の状態 (心身ともに) によって、満足感・不快感、痛みの程度は異なるが、それでも機器・道具の開発デザインの際の視点は重要な要因だと考えられる。そこで、これらの

機器がいかに開発・デザインされてきたのか、患者・利用者の声はいかに導入されているのかを調べていくことが、本プロジェクトの目的であった。もし、開発の際に「女性向け」を意識したデザインがなされているなら、それはいかに表されているのか、なにをもって「女性向け」とされているのかなどを把握しようとした。これらの機器と女性との関係の研究は、その一方に「女性の自己決定」として選ばれているとされる医療と女性との関係性について考察する資料をもたらずと考えるに至った。

【リプロダクティブ・ヘルス/ライツと女性に対する暴力の根絶】

【研究担当】

原 ひろ子 (IGS 非常勤講師、城西国際大学大学院客員教授)

中山まき子 (IGS 研究協力員、同志社女子大学教授)

渡辺 美穂 (F-GENS 研究協力者、国立女性教育会館研究員)

【研究内容】

平成 19 年度は、1) 第 2 回目の DV 防止法改正がどのように推進されたのか、その際の市民・議員等の政策形成への関わりとその推移を資料収集し記録・分析した。また、改正に影響を与えた可能性がある事件等の検討も行った。さらに、2) 地方自治体が政策をどのように具体化し、推進しようとしているのかを検討するため、地方自治体が住民に発信している情報、作成・配布している「トレーニング・マニュアル」とその活用のあり方について諸情報を収集し分析を開始した。

【女性自然科学者・技術者の現状と課題に関する研究——台湾、韓国、インドネシアを中心に——】

【研究担当】

小川真里子 (IGS 客員教授・三重大学教授)

館 かおる (IGS 教授)

【研究内容】

知識基盤社会への移行にともない、女性自然科学者・技術者の現状と課題に関する研究は、世界的にも注目を浴びている研究課題である。特にアジアにおける女性自然科学者・技術者については、欧米からの強い関心にもかかわらず、現状を把握する調査データが十分蓄積されていない、あるいは公開されていないために、状況把握は困難である。また彼女たちに対する期待も、それぞれの国家・地域の科学技術政策や

地域的特色により、多様であるように思われる。このような状況から、本研究プロジェクトでは、主に、台湾、韓国、インドネシアを中心に、調査データの収集と女性自然科学者との交流につとめ、当該諸国での課題やそれに対する政策についての研究を行った。

【アジアにおける女性運動の理論的検討——日韓比較研究——】

〈科学研究費補助金・特別研究員奨励費〉

【研究担当】

戒能 民江 (人間文化創成科学研究科教授)

キーヨン・シン (日本学術振興会外国人特別研究員)

【研究内容】

本研究では、日本と韓国における市民社会の性格とそなかに占める女性運動の位置をフェミニズム理論に立ったシティズンシップ研究や「対抗的公共圏」論を手がかりにしながら比較した。さらに、両国の市民社会のありよう(家族、市場、国家と市民社会が切り結ぶ関係の様態)によって、それぞれの国の女性運動がどのように特徴づけられているかを解明した。なお、本研究の一部は、キーヨン・シンによって論文の形にまとめられ『ジェンダー研究 11 号』(2008)に掲載された。

【健康/セクシュアリティとジェンダー】に関する研究

【研究担当】

根村 直美 (IGS 研究協力員・日本大学准教授)

佐藤(佐久間)りか (IGS 研究協力員)

朝倉 京子 (IGS 研究協力員・新潟県立看護大学准教授)

斉藤 正美 (IGS 研究協力員・富山大学非常勤講師)

菅野 摂子 (立教大学大学院)

田中 俊之 (IGS 研究協力員・学習院大学 PD 研究員)

東 優子 (大阪府立大学准教授)

兵藤 智佳 (早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター・客員講師)

藤掛 洋子 (東京家政学院大学准教授)

その他 健康/セクシュアリティとジェンダー研究会メンバー

【研究内容】

平成 19 年度は、平成 17 年度からの研究成果を、『揺れる性・変わる医療 ケアとセクシュアリティを読み直す——健康とジェンダー IV ——』という単行本(明石書店、2007 年)として発表するための活動を行った。以下、上記成果本

の概要を紹介したい。

第一部では、「健康」や「セクシュアリティ」の考察に関わる学問分野のうち、応用倫理学における「合意」の概念、および、看護学における「自律性」の概念をジェンダー・パースペクティブを取り入れつつ再検討を試みている。第二部では、対象とする医療の領域での当事者と当事者をめぐる現状を検討することにより、それぞれの医療の領域において、当事者性をより一層確保するための新たなヴィジョン、あるいは、当事者性の確保を推し進める契機を模索している。第三部では、セクシュアリティや健康に関わる当事者たちの運動がセクシュアリティや健康についてどのような主張を前面に押し出してきたのか、どのような社会状況の中でその主張を前面に押し出してきたのかを分析し、それらの運動内部のダイナミズムを明らかにしようとしている。第四部では、構築主義の立場からのセクシュアリティ研究としての「ヘテロセクシュアリティ（異性愛）」研究を深化させるための試みがなされている。試みの一つは、男性学からのアプローチである。また、今一つは「相互作用論的な社会学の知見」に基づいて、「自己」の語りを引き出す方法論の模索である。

「大学におけるハラスメントの現状と防止策について」

【研究担当】

戒能 民江（IGS 研究員・本学生活科学部教授）
大理奈穂子（本学大学院人間文化研究科博士前期課程）
上田 智子（横浜市立大学非常勤講師）
辻 智子（早稲田大学非常勤講師）

【研究内容】

知の生産の場である大学におけるハラスメント問題の解決をめざして、特に、アカデミック・ハラスメントを中心に、その実態および対応策の解明を通して、ハラスメントを生み出す大学社会の構造のジェンダー分析を行った。セクシュアル・ハラスメントについては極めて不十分なが、各大学において実態調査が行なわれるようになったが、アカデミック・ハラスメントに関してはほとんど研究の蓄積がない。学生・院生・教職員など大学関係者へのインタビュー調査などを通じて、ハラスメントを生み出す大学の構造について、サブカルチャーを含めて検討した。

「フェミニスト経済学の理論、方法、課題」

【研究担当】

足立真理子（IGS 准教授）
本山 央子（アジア女性資料センター）

【研究内容】

90年代以降に成立した「フェミニスト経済学」の理論課題、方法、動向に関する包括的な研究をおこなった。本年度は90年代以降のフェミニスト経済学の動向と理論分野の整理を行った。

「東北アジアにおけるジェンダー予算分析の新潮流——日本、韓国、台湾を事例として」

【研究担当】

市井 礼奈（IGS 専任講師）
村松 安子（東京女子大学名誉教授）

【研究内容】

本研究は、日本における初の試みとしてジェンダー予算分析（Gender Budget Analysis、以後 GBA と表記）を実施するための基礎研究を行った。昨年度は東北アジア2カ国（台湾と韓国）で実施されはじめている GBA を概観した。台湾では研究者や行政担当者のジェンダー予算分析を実施するためのワークショップが開催されたが、本格的な予算分析は行われていないことがわかった。一方韓国はジェンダー予算に対する取り組みが進んでいることが文献の購読や現地で行った聞き取り調査から明らかになった。韓国では2005年に改定された国家財政法においてジェンダー予算分析の実施が盛り込まれた。具体的には、2010年からあらゆる省庁がジェンダー予算分析を行うことになっている。

2) 外国人客員研究員関連プロジェクト

「教育におけるジェンダー平等——ネパール EFA 第5目標達成の経験から——」

【研究担当】

菅野 琴（元駐ネパールユネスコ代表・カトマンズ事務所長、IGS 客員研究員）
館 かおる（IGS 教授）
高橋 真央（開発途上国女子教育センター講師）
山出 裕子（IGS 研究機関研究員）
飯田 伸彦（IGS 研究支援推進員）
佐藤 梢（IGS アソシエイト・フェロー）

【研究内容】

2007年5月30日、6月7日、27日の三回にわたり、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター公開セミナー『教育におけるジェンダー平等：ネパール EFA 第5目標達成の経験から』で『ネパールにおける女子の教育参加の課題』、『ネパールの女性教師増強政策の諸問題』、『教育におけるジェン

ダー平等達成への展望と課題』という3つのテーマで発表を行った。その報告は論文としてまとめられ、2008年3月ジェンダー研究第11号に掲載された。教育におけるジェンダー平等は『EFA: 万人に教育を』やMDGsの時限付き達成目標の一つである。ネパールを含む多くの国では教育におけるジェンダー平等という目的達成には多くの挑戦がある。本研究では、ネパールの事例に触れながら女子教育普及や女性教師増強参加の障害の一因がジェンダーに基づく偏見にある事を示した。またジェンダー主流化が教育界で進んでいないため、女子教育のスケールアップも進まず、単に女性の特殊な問題として扱われている事も課題として指摘した。国際教育協力においてはジェンダーの視点をもった女子教育への支援の必要性を強調した。

3) 個人研究プロジェクト

「スペインにおける男女共同参画政策について」

【研究担当】

磯山久美子（立教大学他非常勤講師）

【内容】

1978年の民主化以降大きく変化してきた、スペインにおける男女共同参画政策への取り組みを調査する目的で、平成19年度は夏期、現地調査に赴いた。お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員として、スペイン国立図書館での文献調査活動に際し、5年間の調査員資格を取得した。男女共同参画政策について包括的なデータを入手、女性の変化をめぐる歴史的概括と共にこの成果は、「新しいパートナーシップを求めて」『スペイン事情』、河出書房新社（近刊）に掲載される予定である。

「女性と選挙に関する研究」

【研究担当】

大海 篤子（立教大非常勤講師）

【内容】

- ・2007年7月に福岡で開催された世界政治学会において、“Trajectory of Women’s Movement in Japan” を発表。
- ・2007年3月、「女性議員の有効性に関する一考察——女性議員研究の現状と展望から見たもの——」、東北大学出版会、川人貞文・山元一編『政治参画とジェンダー』、東北大学21世紀COEプログラム、ジェンダー法・政策研究叢書第8巻所収
- ・2007年8月、アメリカ政治学会にて、“Trajectory of Women’s Movement in Japan after 1975” を発表。

・2007年10月、日本政治学会にて、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐるポリティックス」を発表

・2008年3月、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐるポリティックス」、東北大学出版会、辻村みよ子、戸澤英典、西谷祐子編、『世界のジェンダー平等——理論と政策の架橋をめざして』、東北大学21世紀COEプログラム、ジェンダー法・政策研究叢書第11巻所収。その他、神奈川・豊島区の男女共同参画推進センターで、女性の政治参画推進講座の講師。

「イギリスにおけるエスニック・コミュニティの諸相 日本人コミュニティと旧植民地コミュニティの比較」

【研究担当】

酒井 順子（フェリス女学院大学他非常勤講師）

【内容】

平成19年度は、ノッティンガムの日本人コミュニティのグループ、ロンドンの日本人ジャーナリストにインタビューをした。また、イーストエンドのバングラデシュ・コミュニティ、ウエスト・ロンドンのアラブ・コミュニティでフィールドワークをおこなった。

オーラル・ヒストリーの手法をジェンダー研究に生かす方法についての考察をおこなった。同時に個人研究者がオーラル・ヒストリーを行う時の手引き書『市民のオーラル・ヒストリー』をまとめた。

「第三者の介入する生殖補助医療が社会へもたらす影響」

【研究担当】

仙波 由加里（神奈川県立衛生看護専門学校他非常勤講師）

【内容】

本年度は、COEジェンダーのC班のプロジェクト調査、および平成18年度厚生労働省生殖医療緊急対策事業の一環として研究者が米国にて実施した調査のデータをもとに、第三者の介入する生殖医療の現状について研究をすすめた。現在、不妊のカップルが日本で基本的に実施されていない提供卵による生殖医療や代理懐胎を求める場合は、米国へ渡ることが多い。米国のカリフォルニア州には、こうした医療を合法的に提供するクリニックが少なくないが、その実態は良く知られていない。そこで昨年は、3月と9月にカリフォルニア州にて、不妊治療クリニックやこうした医療をコーディネートしている機関を訪れ、また文献等からの情報収集を行った。その結果は、11月の日本生命倫理学会において報告し、また「諸外国における生殖補助医療の現状に関する調

査結果報告」にまとめ公表した。

「工学教育とジェンダー」

【研究担当】

高橋さきの（東京農工大学非常勤講師）

【内容】

工学系の学生を対象としたジェンダー論の授業に具体的に組み込むことのできる題材について検討する。工学が生産にかかわる学問分野である以上、その根幹には、ジェンダー視点を導入することによって、よりクリアーに見えてくる事象が、数多く存在している。工学全体を見渡せるような基本的な事象、また、工学の各分野の典型的な事象であって、しかもジェンダー視点が存在することによって事態が鮮明となるような事象をピックアップし、どう伝えていくかについて考えたい。アカデミズムの枠にとらわれることなく、広く生産の現場を対象として考察する。また、科学／技術／科学技術を外在的に扱うのではなく、内部の目と外部の目を同時に持ちうるようなアプローチによる事象の把握をこころがける。

「戦後日本における「美術」と「家庭科」の教科編成—— 「手芸」再定位のポリティクス——」

【研究担当】

山崎 明子（日本学術振興会 RPD 特別研究員）

【内容】

本研究は、日本近現代における女性の表現活動を規定する社会システムを明らかにしようとする一連の研究の中に位置づけられるものであり、近代日本における女性の表現活動能力の育成の場としての「女子美術教育」に焦点を絞り、学校教育における表現活動の位置づけをジェンダー理論の視点から再検討することを目的としている。これまで戦前までの女子美術教育の枠組みを確定していくために、女子用図画教科書の調査および図画教員に関する基礎調査を実施し、美術が教科として有するジェンダー規範を浮き彫りにした。これによって、美術教育が有してきた二つの特徴——男女二つのスタンダードを持つ歴史、そして女子美術の家政科目との近似性——が明らかになった。また同時に、ジェンダーにより明確に教育内容を異にした近代美術教育史を研究するにあたって、ジェンダー理論が不可欠であることも明示できたと考える。

「東アジアジェンダー研究教育ネットワークの形成の試み—— 中国アモイ大学を事例に——」

【研究担当】

林 紅（中国アモイ大学人文学院助教授）

【内容】

中国の大学における女性学・ジェンダー研究教育拠点（全国第1陣21所）である『厦門大学婦女／性別研究と培訓基地』が、中国婦女連合会の「ジェンダーの主流化」の方針展開とともに、2006年11月6日、正式に設置された。しかしながら、中国国内の他の女性学・ジェンダー研究教育拠点と同様、ジェンダー視点をもつ研究教育の担い手は、圧倒的に不足している。この拠点の理念と目的のひとつとして、科目履修を通じてジェンダー意識を普及していくことがあるが、大変に難航している。2006—2007年度迄、4科目の関連講座が社会学専攻で開設されていたが、自然科学と社会科学の諸学科の学部生のための共通選択科目としての『ジェンダーと社会』という講座が、2007—2008年度に開設された。今後は、ジェンダーの視点を持つ男女平等発展の社会形成に寄与・貢献できる次世代の知識人・リーダーシップを育ていくため、ジェンダー専門科目の教員を養成することや、他の女性学・ジェンダー研究教育拠点との連携が最優先課題である。

「フランス語圏移民女性文化の比較研究——現代ヴィジュアル文化における移民性、翻訳性、トランスナショナリズム」

【研究担当】

山出 裕子（IGS 研究機関研究員）

【研究内容】

本研究では、女性文学における、移民と言語の関係に注目し、そこに見られる移民性（間文化的要素）、翻訳性（間言語的要素）、トランスナショナリズム（間民族的要素）の理論分析を中心に行った。本研究の理論的枠組は、『ジェンダー研究』第11号に研究報告として掲載された。

4.21 世紀 COE プログラム

「ジェンダー研究のフロンティア——〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築——」

【研究担当】◎はリーダー

●プロジェクトA

◎戒能 民江（人間文化研究科人間発達科学専攻教授）

熊谷 圭知（人間文化研究科人間発達科学専攻准教授）

足立真理子（IGS 准教授）

●プロジェクトB

◎篠塚 英子（人間文化研究科人間発達科学専攻教授）

御船美智子（人間文化研究科人間発達科学専攻教授）

永瀬 伸子 (人間文化研究科人間発達科学専攻准教授)

水野 勲 (人間文化研究科人間発達科学専攻准教授)

●プロジェクトC

◎館 かつお (IGS・人間文化研究科人間発達科学専攻教授)

小川真理子 (IGS 客員教授・三重大学教授)

原 ひろ子 (IGS 非常勤講師・城西国際大学大学院人文科学研究科客員教授)

柘植 あづみ (IGS 客員教授・明治学院大学教授)

●プロジェクトD

◎竹村 和子 (IGS 研究員・人間文化研究科比較社会文化学専攻教授)

天野 知香 (人間文化研究科比較社会文化学専攻准教授)

石塚 道子 (人間文化研究科比較社会文化学専攻教授)

菅 聡子 (人間文化研究科国際日本学専攻教授)

●統括研究 ジェンダー研究と〈アジア〉

◎戒能 民江・館 かつお

全事業推進担当者

●間プロジェクト研究事業

A「政策と公正」、B「少子化とエコノミー」、C「身体と医療・科学・技術」、D「理論構築と文化表象」の4プロジェクト編成で研究を進め、〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築を行い、より高次の「人間開発」をめざす。また、プロジェクト別の研究のほかに、間プロジェクト研究事業として、(1) ジェンダー平等指標を検討する大規模パネル調査、(2) 近代社会のジェンダー／セクシュアリティに関する文化表象のデータベース作成、(3) 統括研究「ジェンダー研究と〈アジア〉」を進め、プロジェクトを超えた研究の統合を図る。さらに、プロジェクトへの積極的な参画態勢および研究支援体制を整備して、次世代のジェンダー研究教育、男女共同参画社会の担い手の育成を進めている。

— ジェンダー平等指標のパネル調査

御船美智子、永瀬伸子、篠塚英子、水野勲

— 文化表象のデータベース作成

竹村和子、天野知香、石塚道子、菅聡子

— 統括研究 ジェンダー研究と〈アジア〉

戒能民江、館かつお、他

5. 研究交流・社会連携部門

平成19年4月より平成20年3月の間の活動は次の通りである。

1) 研究委員会

平成19年6月18日(月)

各プロジェクトの進捗状況報告、次年度の体制について話し合い

2) IGS セミナー、講演会、ワークショップ

①菅野琴(前駐ネパールユネスコ代表、カトマンズ事務所長)

セミナーを5/30、6/7、6/27に開催。

②多和田葉子(作家)

講演(読書)会を11/9に開催。

③バーバラ・ポコック(南オーストラリア大学教授)、メリー・ルンテ(レスブリッジ大学)、グレンダ・ロバーツ(早稲田大学)を招聘し、国際ワークショップを3/16に開催。

3) 関連研究会

①「映像表現とジェンダー」研究会

〈コーディネーター〉館かつお(IGS教授)、小林富久子(IGS研究協力員・早稲田大学教授)

〈事務局〉磯山久美子(立教大学他非常勤講師)、台丸谷美幸(本学研究生)

②「国際移動とジェンダー (IMAGE)」研究会

〈コーディネーター〉伊藤るり(一橋大学大学院教授)、足立真理子(IGS准教授)

〈事務局〉浅倉寛子(本学大学院人間文化研究科博士後期課程・研究支援員[科研費]2006年8月まで)、落合絵美(本学大学院人間文化研究科博士後期課程・研究支援員[科研費]2006年9月以降)、大橋史恵(COE研究員、本学大学院人間文化研究科博士後期課程)、ブレンダ・レスレション・T・テネグラ(COE研究員、本学大学院人間文化研究科博士後期課程)

6. 教育・研修部門

①研究員

山崎 明子 (日本学術振興会特別研究員 RPD)

キーヨン・シン (日本学術振興会外国人特別研究員)

②学部出講・大学院担当

〈人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻〉

館 かつお

ジェンダー関係論 (前期)

ジェンダー関係論演習 (後期)

開発・ジェンダー論特論（後期 オムニバス）

足立真理子

開発経済学・開発経済学演習（後期）

開発・ジェンダー論特論（後期 オムニバス）

ホーン川嶋 瑤子

国際社会ジェンダー論

伊藤るり

比較ジェンダー開発論（前期集中）

比較ジェンダー開発論演習（後期集中）

〈人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻〉

館かおる

ジェンダー史論演習1（通年）

ジェンダー史論演習2（通年）

足立真理子

ジェンダー政治経済学演習1（通年）

ジェンダー政治経済学演習2（通年）

伊藤るり

国際女性開発論演習1（後期）

国際女性開発論演習2（後期）

〈学部〉

館かおる

全学共通科目 コアクラスター「ジェンダー」知の生成論（後期）

足立真理子

全学共通科目 コアクラスター「ジェンダー」ケア・エコノミー論（前期）

学部共通科目「ジェンダー」（後期）

7. 社会貢献

ジェンダー研究センター

・ 諸外国／国内の女性関係行政部門、民間団体（NGOの女性問題担当者等）、研究者等の視察受け入れ、日本の男女共同参画等現状等に

足立真理子

〈委員〉

・ ゆがわら男女共同参画懇話会委員

（平成19年10月1日～平成21年9月30日）

〈他大学出講〉

・ 早稲田大学非常勤講師

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

館 かおる

〈委員〉

・ 国立科学博物館企画展「なでしこたちの挑戦——日本の女性科学者技術者——」展示設計業者選定委員

（平成19年8月23日～平成19年9月28日）

〈他大学出講〉

・ 早稲田大学法学部非常勤講師 「総合講座 歴史・思想研究入門」「ジェンダー論I」

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

市井 礼奈

・ 内閣府「男女共同参画推進のための調査研究」研究員

（平成19年7月2日～平成20年3月14日）

・ 国際協力機構課題別支援委員会（開発とジェンダー）委員

（平成19年7月20日～平成20年3月31日）

・ 財団法人アジア女性交流フォーラム・研究フォーラム客員研究員

（平成19年4月1日～平成21年3月31日）

8. 文献・資料収集／情報提供／閲覧活動

1) 主要収集資料

国際移動とジェンダーに関する文献・資料／ジェンダーとセクシュアリティに関する文献・資料／開発とジェンダー教育に関する文献・資料／女性と自然科学者に関する文献・資料／リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する文献・資料／アジアの女性政策と開発に関する文献・資料／東アジアの女性政策に関する資料／「東アジアにおける植民地的近代とモダンガール」に関する研究資料など

2) 資料提供

■ 国立科学博物館「日本の科学者技術者展シリーズ第5回 なでしこたちの挑戦——日本の女性科学者技術者——」へ、湯浅年子、辻村みちよ、黒田チカ、保井コノ等関係の資料提供

■ 東京女子高等師範学校関係の資料

■ その他、ジェンダー研究センター刊行物等

3) リファレンスサービス資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

■ コピーサービス：常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当

■ ホームページ（和文・英文）の更新実施

■ 図書以外に関する情報提供

4) 図書・資料寄贈 (敬称略)

掲載は、和書：寄贈者名『書名』(著者名)、洋書：寄贈者名『書名』(イタリック)(著者名)の順とした。
 〈和書〉(財)アジア女性交流・研究フォーラム『インドの女性』(Charities aid foundation, India 著; アジア女性交流・研究フォーラム訳)、宇野 重明『日本・中国からみた朝鮮半島問題：中国復旦大学・島根県立大学合同シンポジウム：学術交流協定締結記念』(宇野重昭, 別枝行夫, 福原裕二編)、頸草書房『桜蔭会東京支部六十年記念誌 社団法人桜蔭会東京支部 フェミニストの法：二元的ジェンダー構造への挑戦 = Feminist law : challenge to the binary gender structure』(若林翼著)、ジェンダー研究センター『中国映画のジェンダー・ポリティクス：ポスト冷戦時代の文化政治』(戴錦華著、宮尾正樹監訳、館かおる編)、『近代アジアのフェミニズムとナショナリズム』(クマーリ・ジャヤワルダネ著)、島美喜子『過ぎし日々を顧みて：東京女子大学定年記念と随想など』(島美喜子著)、昭和女子大学女性文化研究所『女性文化と文学』(昭和女子大学女性文化研究所編)、館かおる『ローカル・ニーズの豊かな世界：「草の根」からジェンダー課題を考える：国際ワークショップ = 'Gender and development' and the local needs : networking for gender equity with locally-diverse gender needs (要旨集)』、『ローカル・ニーズの豊かな世界：「草の根」からジェンダー課題を考える：国際ワークショップ = 'Gender and development' and the local needs : networking for gender equity with locally-diverse gender needs (ファイル)』、『植物と帝国：抹殺された中絶薬とジェンダー』(ロンダ・シービンガー著、小川真里子 弓削尚子訳)、『文化表象の政治学：日韓女性史の再解釈』(天野知香, 李南錦, 松尾江津子編集)、棚沢直子・館かおる『フランスから見る日本ジェンダー史：権力と女性表象の日仏比較』(棚沢直子, 中嶋公子編; フランソワーズ・コラン [ほか著]), 東北大学大学院法学研究科 COE 支援室『世界のポジティブ・アクションと男女共同参画』(辻村みよ子編)、『日本の男女共同参画政策：国と地方公共団体の現状と課題』(辻村みよ子, 稲葉馨編)、『ジェンダー法学・政治学の可能性：東北大学 COE 国際シンポジウム・日本学術会議シンポジウム』(辻村みよ子, 山元一編)、『ジェンダーと教育：理念・歴史の検討から政策の実現に向けて』(生田久美子編)、『セクシュアリティと法』(齊藤豊治, 青井秀夫編)、『家族：ジェンダーと自由と法』(水野紀子編)、『国際

法・国際関係とジェンダー』(植木俊哉, 土佐弘之編)、『雇用・社会保障とジェンダー』(嵩さやか, 田中重人編)、『政治参画とジェンダー』(川人貞史, 山元一編)、『ジェンダーの基礎理論と法』(辻村みよ子編)、『世界のジェンダー平等：理論と政策の架橋をめざして』(辻村みよ子, 戸澤英典, 西谷祐子編)、『男女共同参画のために：政策提言』(辻村みよ子, 河上正二, 水野紀子編)、働く母の会『働いて輝いて：次世代へつなぐ働く母たちの50年』(働く母の会編)、原美奈子・二見れい子『生きる勇気と癒す力：性暴力の時代を生きる女性のためのガイドブック』(エレン・バス, ローラ・デイビス著; 原美奈子, 二見れい子共訳)、平野健一郎『中国「女権」概念の変容：清末民初の人権とジェンダー』(須藤瑞代著)、平凡社・中川素子『モナ・リザは妊娠中?：出産の美術誌』(中川素子著)、『チマ・チョゴリ制服の民族誌(エスノグラフィ)：その誕生と朝鮮学校の女性たち』(韓東賢著)

〈洋(および中国)書〉青木 デボラ *Women's Asia* (Yayori Matsui)、中国人民大学社会学部 中国性革命纵论 = *Sex revolution in China : its origin, expressions and evolution* (潘绥铭著)、中国性研究 = *Sexuality research in China. 2007* (1) (黄盈盈, 潘绥铭主编)、中国性研究 = *Sexuality research in China. 2007* (2) (黄盈盈, 潘绥铭主编)、中国性研究 = *Sexuality research in China. 2007* (3) (黄盈盈, 潘绥铭主编)

5) 来館・閲覧者

学生、研究生、大学院生	11 名
大学院以上の研究者	14 名
その他	10 名